

内科専門研修プログラム

新内科専門医制度では、内科専門医は、2年間の初期臨床研修の後、3年間の研修を通して育成されます。内科のSubspecialty領域の専門医を取得するには、本制度における「内科専門医」の資格を取得することが必須となります。

大阪大学医学部附属病院では、本制度において、基幹施設として「大阪大学医学部附属病院 内科専門研修プログラム」を用意しています。そのコンセプトは、①大阪大学の内科全体で専門医を育てる ②教育機会の充実化を図る ③学術活動に関して高い目標設定をおく、です。

研修プログラムとして大きく2つのコース（内科基本コースとSubspecialty重点コース）を用意しています。内科基本コースは、高度な総合内科（Generality）の専門医を目指す場合や、将来のSubspecialtyが未定な場合に選択します。一方、Subspecialty重点コースは、それぞれの専門医像に応じた研修を準備しています。また、大学院における臨床研究は、臨床医としてのキャリアアップにも大いに有効であることから、研修期間中に臨床系大学院に進学しつつも専門医資格が取得できるプログラムを、Subspecialty重点コースの中に用意しています。

本プログラムの魅力は、何といっても早期から大阪大学において教育を受けることができる点にあります。大学はいうまでもなく学問の府であり、大学ならではのアカデミズムが浸透しています。各領域の専門家が数多く在籍しており、また希少症例も含めて数多くの症例が集まってきます。つまり、教育資源が極めて豊富であるということです。内科専門医取得後のSubspecialtyプログラムへの移行もスムーズに行えます。是非、本プログラムへの応募をご検討ください。（Subspecialty専門医の連動研修（並行研修）については、後に記載の「内科専門研修とサブスペ研修の連動研修（並行研修）の概念図」をご参照ください。）

（1）プログラムの概要

本プログラムの構成施設群は以下の通りです。基幹施設として大阪大学医学部附属病院、連携施設として、豊能医療圏に位置する地域密着総合病院、同じく豊能医療圏に位置する高度専門医療機関、大阪市および神戸市に位置する都市型総合病院、同じく大阪市に位置する高度専門医療機関、堺市および和歌山県田辺市、兵庫県阪神間などに位置する地域中核総合病院の計 18 病院で構成されています。県外の病院が連携施設として含まれているのは、これまでの阪大病院との連携実績から教育資源の按分が必要と判断されるためです。

基幹施設：大阪大学医学部附属病院

連携施設：市立池田病院	（豊能圏における地域密着総合病院）
市立豊中病院	（豊能圏における地域密着総合病院）
箕面市立病院	（豊能圏における地域密着総合病院）
吹田市民病院	（豊能圏における地域密着総合病院）
国立循環器病研究センター病院	（豊能圏の高度専門研修病院）
国立病院機構大阪刀根山医療センター	（豊能圏の高度専門研修病院）
住友病院	（大阪市に位置する都市型総合病院）
日本生命病院	（大阪市に位置する都市型総合病院）
淀川キリスト教病院	（大阪市に位置する都市型総合病院）
大阪国際がんセンター	（大阪市の高度専門研修病院）
桜橋渡辺病院	（大阪市の高度専門研修病院）
堺市立総合医療センター	（堺市の地域中核総合病院）
紀南病院	（和歌山県田辺市の地域中核総合病院）
川崎病院	（神戸市に位置する都市型総合病院）
兵庫県立西宮病院	（西宮市の地域中核総合病院）
市立伊丹病院	（伊丹市の地域中核総合病院）
川西市立総合医療センター	（川西市の地域中核総合病院）

原則、基幹施設で 1 年以上、連携施設でも 1 年以上の研修を行います。プログラムの年間スケジュールは、各コースのところで記載いたします。

(2) 指導体制

プログラム統括責任者 兼 研修委員会委員長	保仙 直毅
副プログラム統括責任者	坂田 泰史
プログラム管理者	竹原 徹郎
日本内科学会指導医 132 名 (2022 年 4 月時点)	

また、以下の専門医が定常的に在籍しています。

日本消化器病学会消化器病専門医、日本肝臓学会肝臓専門医、日本循環器学会循環器専門医、日本糖尿病学会糖尿病専門医、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医、日本腎臓学会腎臓専門医、日本透析医学会透析専門医、日本呼吸器学会呼吸器専門医、日本血液学会血液専門医、日本神経学会神経内科専門医、日本アレルギー学会アレルギー専門医（内科）、日本リウマチ学会リウマチ専門医、日本老年医学会老年病専門医

(3) 連携施設としてのプログラム

大阪大学医学部附属病院は、基幹施設としての本プログラムのほか、大阪府下および兵庫県下の25基幹施設（下記）の内科専門研修プログラムに、連携施設として参加しています。これら25基幹施設のプログラムに登録されても、阪大病院で内科研修を受ける機会が得られ、上記の指導医が指導にあたります。

阪大病院が連携施設として参加している、他基幹施設プログラム（25プログラム）

- ・大阪労災病院内科専門研修プログラム

・りんくう総合医療センター内科専門研修プログラム

・大阪南医療センター内科専門研修プログラム

・市立東大阪医療センター内科研修プログラム

・八尾市立病院内科専門研修プログラム

・大手前病院内科専門研修プログラム

・大阪府立急性期・総合医療センター内科専門研修プログラム

・JCHO星ヶ丘医療センター内科専門研修プログラム

・大阪警察病院内科専門医研修プログラム

・大阪医療センター内科専門研修プログラム

・淀川キリスト教病院内科専門研修プログラム

・神戸掖済会病院内科専門研修プログラム
- ・第二大阪警察病院内科研修プログラム

・JCHO大阪病院内科専門研修プログラム

・市立吹田市民病院内科専門研修プログラム

・大阪府済生会千里病院内科専門研修プログラム

・市立池田病院内科専門研修プログラム

・箕面市立病院内科専門医プログラム

・市立豊中病院内科専門研修プログラム

・兵庫県立西宮病院内科専門研修プログラム

・伊丹Tera昆陽プログラム

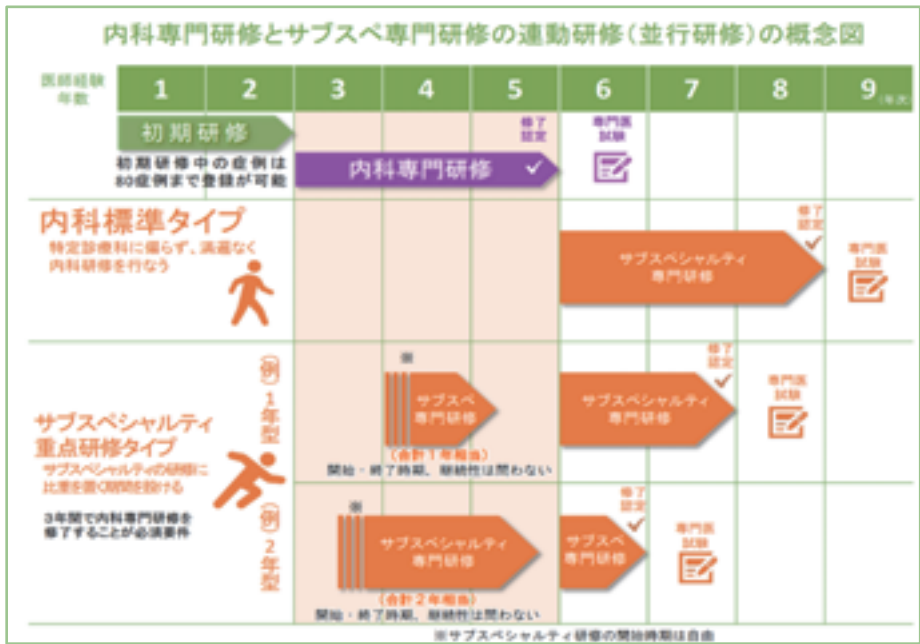
・関西労災病院内科専門医プログラム

・近畿中央病院内科専門研修プログラム

・西宮市立中央病院内科専門研修プログラム

・川西市立総合医療センター内科専門研修プログラム

△



(図は日本内科学会のHPより引用)

内科専門研修プログラム

内科基本コース

(1) コースの全体像

内科（Generality）専門医は勿論のこと、将来、内科指導医や高度な Generalist を目指す方が選択します。将来の Subspecialty が未定な場合に選択することもあります。内科基本コースは内科の領域を偏りなく学ぶことを目的としたコースであり、専攻医研修期間の3年間に於いて内科領域を担当する全ての科をローテーションします。

基本コース KKR パターン： 1～2年目を基幹施設において、原則3カ月を1単位として、各診療科をローテーションします。3年目は地域医療の経験と症例数が充足していない領域を重点的に連携施設で研修します。

基本コース RRK パターン： 1～2年目を連携施設で common disease と地域医療を経験し、3年目を基幹施設（大学）で難治性疾患、希少疾患を重点的に研修するパターンもあります。

研修する連携施設の選定は専攻医と面談の上、プログラム統括責任者が決定します。

(2) コースの概要

① 内科基本コース KKRパターン

専攻医研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	病棟1			病棟2			病棟3			病棟4		
	ローテーションする診療科により、割当直医として当直業務を1回/月以上行う											
	1年目にJMECCを受講											
2年目	病棟5			病棟6			病棟7			予備(不足症例用)		
	ローテーションする診療科により、割当直医として当直業務を1回/月以上行う											
										専門医取得のための病歴要約提出準備		
3年目	連携施設 A											
	初診・再診外来 週に1回 6か月以上担当											
	1回/月以上の当直業務を6か月以上行う											
その他の要件	医療倫理、医療安全、感染防御に関する講習会 年に2回以上の出席											

1～2年目は原則各科をローテーションして偏りなく症例を経験していくが、疾患によっては入院が長期にわたり、長期の担当が必要な症例もあるため、複数の診療科をまたいで症例を担当することもある。

連携施設A： 市立池田病院、市立豊中病院、箕面市立病院、吹田市民病院、住友病院、日本生命病院

② 内科基本コース RRKパターン

専攻医研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	連携施設 A（common diseaseと地域医療を経験）											
	1回/月以上の当直業務を6か月以上行う											
	1年目にJMECCを受講											
2年目	連携施設 A（common diseaseと地域医療を経験）											
	初診・再診外来 週に1回 6か月以上担当									専門医取得のための病歴要約提出準備		
	1回/月以上の当直業務を6か月以上行う											
3年目	病棟1	病棟2	病棟3	病棟4	病棟5	病棟6						
	基幹施設で難治性疾患、希少疾患を重点的に研修											
	ローテーションする診療科により、割当直医として当直業務を1回/月以上行う											
その他の要件	医療倫理、医療安全、感染防御に関する講習会 年に2回以上の出席											

3年目の基幹施設での研修は、原則各科をローテーションしていくが、疾患によっては入院が長期にわたり、長期の担当が必要な症例もあるため、複数の診療科をまたいで症例を担当することもある。

連携施設A： 市立池田病院、市立豊中病院、箕面市立病院、吹田市民病院、住友病院、日本生命病院

（３）コースの実績

大阪大学医学部附属病院の内科系各診療科は、多数の専門医が在籍し、毎年多くの内科研修医の指導を行っています。また、一般診療に加え、高度先進医療も経験できます。また連携施設には、各施設に特徴的な専門医が存在し、特徴ある指導を行います。

（４）コースの指導状況

日常診療はもちろんのこと、種々の臨床研究も経験できます。研究会・学会等を通じた学術的指導も行っています。

（５）専門医の取得等

本コースにて内科専門医取得後の具体的な活躍の場としては、下記のような場が揚げられます。

- ・地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）として

地域において常に患者と接し、内科慢性疾患に対して、生活指導まで視野に入れた良質な健康管理・予防医学と日常診療を任務とする全人的な内科診療を実践します。

- ・内科系救急医療の専門医として

内科系急性・救急疾患に対してトリアージを含めた適切な対応が可能な、地域での内科系救急医療を実践します。

- ・病院での総合内科（generality）の専門医として

病院での内科系診療で、内科系の全領域に広い知識・洞察力を持ち、身体・精神の統合的・機能的視野から診断・治療を行う能力を備えた総合内科医療を実践します。



内科専門研修プログラム

サブスペシャルティ重点コース

(1) コースの全体像

希望するSubspecialty領域を重点的に研修するコースです。原則、選択するSubspecialty領域の診療科に所属して研修計画を立て、研修を行います。最初の1～2年で内科専門研修に必要な症例を経験し、2年目または3年目よりSubspecialty領域を重点的に研修することになります。基幹施設と連携施設のローテーションには色々なパターンがあります。

KKRパターン：1～2年目は基幹施設において、原則3カ月を1単位として各診療科をローテーションし、3年目には、連携施設において内科研修を継続し、Subspecialty領域を重点的に研修する

KRRパターン：1年目に基幹施設、2年目、3年目に連携施設で研修する

RRKパターン：1～2年目を連携施設で内科疾患全般を研修し、3年目に基幹施設でSubspecialty領域を重点的に研修する

RKKパターン：1年目を連携施設、2年目を基幹施設でローテーションし、3年目は基幹施設でSubspecialty領域を重点的に研修する、などがあります。

サブスペシャルティ重点コースのRRKパターンおよびRKKパターンは、3年目または2年目から、各診療科の臨床系大学院への入学が可能であり、大学院に早く進学したい人向けのパターンといえます。研修する連携施設の選定は専攻医と面談の上、希望するSubspecialty領域の責任者とプログラム統括責任者が協議して決定します。

(2) コースの概要

① サブスペシャルティ重点コース **KKRパターン**

1～2年目は基幹施設において、原則3カ月を1単位として各診療科をローテーションし、3年目には、連携施設において内科研修を継続し、Subspecialty領域を重点的に研修する

専攻医研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	病棟1			病棟2			病棟3			病棟4		
	ローテーションする診療科により、副当直医として当直業務を1回/月以上行う											
	1年目にJMECCを受講											
2年目	病棟5			病棟6			病棟7			予備(不足症例用)		
	ローテーションする診療科により、副当直医として当直業務を1回/月以上行う											
										専門医取得のための病歴要約提出準備		
3年目	連携施設D (Subspecialty領域を重点的に研修)											
	初診+再診外来 週に1回 6か月以上担当											
	1回/月以上の当直業務を6か月以上行う											
その他の要件	医療倫理、医療安全、感染防御に関する講習会 年に2回以上の出席											

1～2年目は原則各科をローテーションして偏りなく症例を経験していくが、疾患によっては入院が長期にわたり、長期の担当が必要な症例もあるため、複数の診療科をまたいで症例を担当することもある。

連携施設B：国立循環器病研究センター病院、大阪刀根山医療センター、桜橋渡辺病院、淀川キリスト教病院、大阪国際がんセンター、堺市立総合医療センター、紀南病院、川崎病院、兵庫県立西宮病院、市立伊丹病院

② サブスペシャルティ重点コース **KRR パターン**

1 年目に基幹施設、2 年目、3 年目に連携施設で研修する

専攻医研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	病棟1			病棟2			病棟3			病棟4		
	ローテートする診療科により、副当直医として当直業務を1回/月以上行う											
	1年目にJMECCを受講											
2年目	連携施設A（1年目にローテートしていない領域を研修）											
	初診・再診外来 週に1回 6か月以上担当											
	1回/月以上の当直業務を6か月以上行う									専門医取得のための病歴要約提出準備		
3年目	連携施設B（Subspecialty領域を重点的に研修するとともに充足していない症例を経験） （1年目の3か月と合わせてSubspecialty領域重点研修期間は最長1年とします）											
その他の要件	医療倫理、医療安全、感染防御に関する講習会 年に2回以上の出席											

1年目は原則各科をローテートして偏りなく症例を経験していくが、疾患によっては入院が長期にわたり、長期の担当が必要な症例もあるため、複数の診療科をまたいで症例を担当することもある。

連携施設A： 市立池田病院、市立豊中病院、箕面市立病院、吹田市民病院、住友病院、日本生命病院

連携施設B： 国立循環器病研究センター病院、大阪刀根山医療センター、桜橋渡辺病院、
淀川キリスト教病院、大阪国際がんセンター、堺市立総合医療センター、紀南病院、
川崎病院、兵庫県立西宮病院、市立伊丹病院

③ サブスペシャルティ重点コース **RRK パターン**

1～2 年目を連携施設で内科疾患全般を研修し、3 年目に基幹施設で Subspecialty 領域を重点的に研修する

専攻医研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	連携施設A（common diseaseと地域医療を経験）											
	1回/月以上の当直業務を6か月以上行う											
	1年目にJMECCを受講											
2年目	連携施設A（common diseaseと地域医療を経験）											
	初診・再診外来 週に1回 6か月以上担当									専門医取得のための病歴要約提出準備		
	1回/月以上の当直業務を6か月以上行う											
3年目	基幹施設（Subspecialty領域を重点的に研修するとともに不足症例を経験） （希望に応じて、臨床系大学院に入学のうえ、Subspecialty領域を研修します）											
	選択するSubspecialty領域により、副当直医として当直業務を1回/月以上行う											
その他の要件	医療倫理、医療安全、感染防御に関する講習会 年に2回以上の出席											

連携施設A： 市立池田病院、市立豊中病院、箕面市立病院、吹田市民病院、住友病院、日本生命病院

④ サブスペシャルティ重点コース **RKK パターン**

1年目を連携施設、2年目を基幹施設でローテート、3年目は基幹施設で Subspecialty 領域を重点的に研修する

専攻医研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	連携施設A（common diseaseと地域医療を経験）											
	1回/月以上の当直業務を6か月以上行う											
	1年目にJMECCを受講											
2年目	病種1	病種2	病種3	病種4	病種5	病種6						
										専門医取得のための病歴要約提出準備		
3年目	主科（希望に応じて、臨床系大学院に入学のうえ、Subspecialty領域を重点的に研修します）											
	初診・再診外来 週に1回 6か月以上担当											
	選択するSubspecialty領域により、副当直医として当直業務を1回/月以上行う											
その他の要件	医療倫理、医療安全、感染防御に関する講習会 年に2回以上の出席											

2年目は原則各科をローテートして不足症例を経験していくが、疾患によっては入院が長期にわたり、長期の担当が必要な症例もあるため、複数の診療科をまたいで症例を担当することもある。

連携施設 A： 市立池田病院、市立豊中病院、箕面市立病院、吹田市市民病院、住友病院、日本生命病院

(3) コースの実績、指導状況

大阪大学医学部附属病院の内科系各診療科は、多数の専門医が在籍し、毎年多くの内科研修医や内科サブスペシャルティ研修医、さらに大学院生の指導を行っています。また、一般診療に加え、高度先進医療も経験できます。また連携施設には、各施設に特徴的な専門医が存在し、特徴ある指導を行っています。

日常診療はもちろんのこと、種々の臨床研究も経験できます。研究会・学会等を通じた学術的指導も行っています。

(4) 専門医の取得等

本コースによる内科専門医取得後は、各研修医の希望に応じて、引き続き下記のようなキャリア形成を目指します。

・内科系 subspecialty 領域の専門医を目指す

阪大病院またはその関連施設において内科系の Subspecialty 科に所属して診療に従事し、内科サブスペシャルティ研修を継続します。

・内科系の医学博士取得を目指す

大阪大学大学院医学系研究科の大学院生または研究生として、臨床研究または基礎医学研究を行い、医学博士の取得を目指します。また週に何時間かは、大学病院または地域の医療機関にて診療を実践する機会を持ち、サブスペシャルティ領域の専門医も目指します。

次ページ以降、各サブスペシャルティ重点コースの紹介をいたします。

- 1) 循環器内科コース
- 2) 腎臓内科コース
- 3) 消化器内科コース
- 4) 糖尿病・内分泌・代謝内科コース
- 5) 呼吸器内科コース
- 6) 免疫内科コース
- 7) 血液・腫瘍内科コース
- 8) 神経内科・脳卒中科コース
- 9) 老年・総合内科コース

問い合わせ先

■ 大阪大学医学部附属病院 内科専門研修プログラム (基本コース)

担当者 草壁 信輔

✉ kenshu@bldon.med.osaka-u.ac.jp